

秋田内陸線の存廃問題について『寺田知事との対話集会』

厳しい経営で存廃問題に直面している秋田内陸線について、4月25日、寺田知事と仙北市・北秋田市の住民及び関係者による対話集会が開催され、仙北市では同線お座敷列車(阿仁合駅～角館駅)及び角館交流センターを会場に行われました。

寺田知事は「できれば残したいが、赤字の垂れ流しに財政負担は限界がある。待つて良くなる状況になく、日常の足として必要なければやめた方がよい」と厳しい見解を述べました。地元住民には通勤や通学利用などで乗車するなど具体的な取り組みのほか、沿線両市の市長及び議員には互いに将来の方向性を真剣に議論するよう強く求め「安全対策の必要性も考慮し9月までには方向付けする」ことを改めて強調しました。



石黒市長は「経営は依然厳しいが、収支は改善傾向にあり再生の途上にある。地元の乗車だけでの改善には限界があり、観光をはじめ交流人口を増やす施策を中心にあきらめずに努力する」と述べたほか「存続を願う沿線地域では乗車運動以外に除雪作業や清掃美化という支援活動でも汗を流し頑張っている」と地域の熱意や行動にも広く理解を求めました。

出席者からは「数は減少傾向だが生活に欠かせない人は多数いる。無くなれば過疎に拍車がかかり集落の存続さえ危惧される。道路と同じく行政で守って欲しい」といった切実な発言が相次いだほか、輸送以外の事業収益も必要／全国にアピールできる愛称をつける／経営には民間人が携わって欲しい／今こそ我々の地域力が試されている／あきらめずに頑張る存続させよう…などといった存続に向けた提言や意見も多く出されました。



この日、仙北市内の各駅では一行を乗せた列車の通過に合わせて住民や子供たちが集まり、横断幕を持って存続を訴える場面もありました。知事は今後も対話の場を持つとしています。



《推移》

| | | | H元年度 | | H13年度 | | H18年度 |
|-------------|-----|------|---------|---|---------|---|---------|
| 輸送人員 (人) | 定期券 | 主に通学 | 576,660 | ↘ | 443,280 | ↘ | 262,279 |
| | 定期外 | 主に地元 | 501,847 | ↘ | 234,741 | ↘ | 170,455 |
| | | 主に観光 | | | 45,050 | ↗ | 67,460 |
| 赤字額(千円) | | | 146,376 | ↗ | 303,025 | ↘ | 262,500 |

秋田内陸線は沿線地域の足としてのほか、県内陸南北を年間7万人の観光客が移動する交通ルートにもなっており、観光産業を活かしたまちづくりの上でも大きな役割を担う交通基盤であり地域資源です。

仙北市では、北秋田市とともに沿線住民の乗車率向上を前提として、地域の魅力を高め発信することで観光客等の交流人口の増加を図ることが必要になっています。

行政だけでは成し得ません。今求められているのは、住民の熱意と行動です。市民一人ひとりの利活用をよろしくお願いします。



企画政策課
電話43-1112